

法政就業力通信

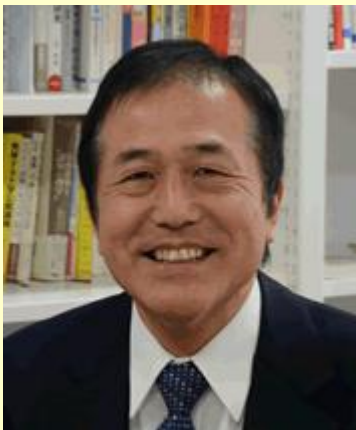
～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

「分かつろう」とする気持ち！

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）



いろいろな見方

最近の若者を表現すると、ナイーブという言葉がピッタリと感ずます。改めて調べると、naïve とはフランス語が語源でその意味は無邪気な・天真爛漫な・純真な・素朴な、とあります。きれいな言葉ですがその裏には、繊細な・壊れそうな・頼りにならない、などの意味合いも含めて当てはめていることも無視できません。

誰のせい？

ではなぜ彼らはそう育ったのでしょうか？愛情を注がれて育った一方、厳しさと対面する機会が決して多くなかったのが一面と思います。バブル崩壊・少子高齢化・ゆとり教育など社会的な側面もかなりの影響を与えたと言われます。

しかし、一番の原因は親と先生方の態度ではなかったのかとの想いはめぐえません。直接接してきた周りの姿勢こそが彼らをそう育てたのだと考えます。

大学でのキャリアの学び

大卒に社会が求める能力と大学へ入学してきた学生の現状とのギャップを埋める為に大学でのキャリア教育が行われています。そしてキャリア教育を通じて、彼らには大学生活の全てが働く力に直結することの理解を求めています。とはいえ、どう接すれば良いのでしょうか？答えは相手を「分かつろう」とすること、具体的には彼らの価値観を理解しようとする姿勢が大切だと思います。

何が大切か

若者の価値観は「モノ」から「コト」へ変化したと言われています。例えば、車を買いたいと思わない・買うものは安物でもイベントにはこだわる、などお金の使い方も現代特有の行動をします。

では、彼らは大学生活で何が大切なのでしょうか？自分に役立つ「コト」です。より良い成績を取るのに役立つコト、将来の就活に役立つコト…、大学生活が楽しくなるコト、それに対して教員が出来ることは「考え方」を教えることだと考えます。そしてさらにどう動くかまでつなげる道筋にヒントを与えることです。

どう接するか

学生はともすれば、直接の「答え」を求めます。そこに「考え方」という回答を与える。そして「答え」そのものは学生自らが見出す。

やり方は、「どうすれば君にとって得だと思う？」「それを君が相手ならどう感じる？」「じゃあ、どうすれば良いんだろう？」などと相手への配慮を意識した考えを促すことです。こうすれば価値観の違いを超えて、分かり合えると思います。

大人のみなさんにもぜひ実行していただければと、願う次第です。

略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学

法政大学職員

11年~ 法政大学教員

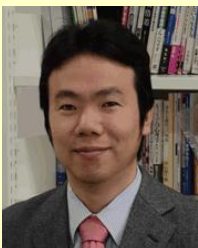


略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84~89年
京都大学経済研究所助手、90~97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年~03年法政大学経営学部教
授、04年~IM研究科教授。

発言を促す方法＝否定しないこと

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

新学期になって、新しい講義やゼミが始まりました。新しいものに取り組むとき、誰も不安になります。私のゼミにも12名の学生が新たに加わりました。みんな緊張した面持ちで第1回目のゼミに出てきました。◆私は、どんなときでも、学生の意見を否定しないように心がけています。自分の考えをみんなの前で言うのは勇気がいられます。「こんなことを言っても大丈夫だろうか?」「自分の意見は間違っているのではないだろうか?」一恥をかきたくないという気持ちが発言を躊躇させます。◆そんな学生に「何でもいいから考えていることを言ってみよう」と促すには、教師の対応が重要です。教師が期待しているのとは異なる意見が出て来たとき、「そういう考え方もあるね」と、とりあえず受け止めます。その上で、その学生がなぜそう考えたのかを質問していきます。「こういう場合はどうなるだろう?」「こんな観点から見るとどうかな?」一忍耐のいる対応ですが、これを繰り返すと、学生はだんだんと意見を述べるようになります。◆学校は訓練の場です。多くの発言機会を持たせれば、それだけ上達します。何事も練習が大事ですね。



略歴 法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)修了
後、法政大学大学院政策創造研究科
博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。

普段からの関わりを大切に

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

卒業したばかりの新社会人から、研修や職場の様子を知らせるメールが届きます。そして、ビジネスマナー研修では、決まって「報・連・相」が取り上げられ、その重要性が語られているようです。それについて否定するつもりはありませんが、卒業生からのメールがそうであるように、人はもともと「伝えたい」という気持ちを持っているように思います。しかし、相手の反応が無ければ、あるいは否定的な反応ばかりであれば、次第に伝える意欲は失われてしまうでしょう。もちろん、仕事ですから意欲だけの話で片づけるわけにはいきません。しかし、円滑な「報・連・相」には、普段からのコミュニケーションとそれによって培われた信頼関係が影響していると考えます。授業においても、学生のよき相談相手となれるよう、普段からの関わりを大切にしたいと思います。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事
を経て人事コンサルタントとして独立。
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの
大学でキャリア論の講師を務める。

3Dプロジェクトの学生からの評価

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

新学期が始まり、大学が一番、活気に溢れている季節ですね。当プロジェクトによる授業も3年目を迎えました。新教材で毎年バージョンアップしています。有田先生と私が担当の「キャリアデザイン入門」は、1週目(6コマ)で約1,000人の新入生が受講し、日によっては教室に立ち見が出るほどの盛況です。今月いっぱい履修登録期間ですので、新入生もいろいろな授業を聴講しながら迷うことでしょう。それは大学生としてのキャリアデザインの一步です。

私の初回の授業ガイダンスで、この講義を選ぶ理由をアンケートにとってみたところ、最も多かった理由は「先輩のすすめ(15%)」でした。いつも授業にほとんど出ないサークルの先輩が「これだけは出ていた。」と言ってくれたとか。当プロジェクトへの現場からのありがたい評価と受け止めますし、勧めてくれた先輩の期待にも応えたいものです。

◆ 今年度の取組み

当プロジェクトでは今年もさまざまな取組みを行う予定です。

- ・昨年完成いたしました「働く力測定アセスメント」の実施、さらにはアセッサー(能力評価者)の育成も行います。
- ・「催事販売型インターンシップ」は前回の経験を活かし、本格的に取り組めます。
- ・「教材ビデオ制作」シリーズ5・6は流通業界を舞台としたもの、中小企業のものづくりをテーマにした作品を企画中です。

また、オープンキャンパスでは特任教員による保護者向けのイベントを、夏には企業向けのシンポジウムを開催します。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

◆ 編集後記 :

新学期です。授業も本格的に始まりキャンパスには学生があふれています。連休明けにはキャンパスから学生が消えるというのはもう過去の都市伝説ですね。最近の学生はとにかく忙しそうです。単位の実質化ということで授業では山のように課題が出され、一方で大学時代は勉強だけでなくいろいろな社会経験を積みなさいということでボランティアやインターンシップにも取り組みます。その他にも当然サークルやアルバイトなどなど・・・「選択の自由」という言葉がありますが、学生時代は「自由」にいろいろなことにチャレンジできる時期ですが、さすがに身体がいくつあっても足りません。自分に必要なことをうまく「選択」して、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

＜ 事務局:平山 ＞

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/